



教育セミナー報告

第1回 国語・算数
カリスマ対談
2014年2月

第2回 理科・社会
教科調査官に聞く！
2014年8月



第1回、第2回

「読み・書き」が 苦手の児童への 取り組み



小池 敏英

東京学芸大学教授
NPO法人スマイル・プラネット理事

漢字単語の読みは記憶が関係します。絵を合わせて見せるなどして、その漢字のイメージを高め、意味がとれるようになると読めるようになるという調査結果が出ています。学習する漢字を子どもたちにとって「有意味語」にしていくことが大切です。

文章を読めないことは、「学習意欲がもてない」ことにつながります。ひらがなや漢字が読めるようになることが、有意味語となり、理解が進むこととなります。今のところ、世の中にはなかった漢字単語の「読みプリント」をスマイル・プラネットではWebで提供しています。

第1回 国語教育・算数教育の課題、期待は？

今までの授業は、知識の伝達であったと思います。そうではなくて、教室で子どもたちが発見するような、知識を自分で作り上げていくような授業を求めていくことが大事です。

これまで定番だった授業に、「単元を貫く言語活動」を位置づけることによって、子どもたちが見通しをもって主体的に思考・判断できるような授業が成立する可能性があります。



算数のカリスマ

坪田 耕三 青山学院大学教授



国語のカリスマ

水戸部 修治 文部科学省教科調査官

漢字単語の読みは記憶が関係します。絵を合わせて見せるなどして、その漢字のイメージを高め、意味がとれるようになると読めるようになるという調査結果が出ています。学習する漢字を子どもたちにとって「有意味語」にしていくことが大切です。



算数

算数の場合、一つの問いに対して、解き方がいろいろあるという先生方の柔軟な構えが大切だと思います。そこを先生が常に心がけた授業をしていると、子どもたちは、友だちのいろいろな考えを聞いてみようという心もちになる。解き方がいろいろあるのと同様に、さらに答えや問題もいろいろの広がりがあると考えたらもっとおもしろい世界が生まれます。九九の表、カレンダー、文字盤などからいろいろな決まりを見つけてみるのも柔軟な思考を促す一つの方法です。先生方が柔軟な感性をもち、教材研究・開発をしたり、子どもたちの発言を受け止めたりしていくことが、授業改善の一つの方策ではないでしょうか。



国語

具体的な手立てとしては、導入が重要になってきます。例えば学習のゴールを、先生が作ったモデルで示して、子どもに見通しをもたせながら単元全体を進めていくという手があります。その際、本時のめあてを示すときに学習のゴールを常にそばに表記して、何のためにその本時の学習をするのか、どこに向かっていくのかを子ども自身に意識させることが大切です。

課題解決のための方策は？

「キャリア教育」の重要性



藤田 晃之

筑波大学教授
前・文部科学省生徒指導調査官

キャリア教育は、学習指導要領が目指す「学習意欲の向上や学習習慣の確立」と明確な関連性があることを、まず確認したいと思います。そして、キャリア教育によって、「今の学びは将来につながっていて、社会を支えるし、私たち自身も支えてくれるんだ」と子どもたち自身が腹落ち感を伴って実感できることが重要ではないかと思います。

そのためには、“今、学んでいることの意味やイメージを、子どもたちの将来との関係で具体的に提示する”というのが、キャリア教育の1つのあり方と考えてよいと思います。

第2回 理科・社会は、どうして学ぶのか？

社会科誕生の経緯を見ると、やはり“戦争を繰り返さず、平和で民主的な社会をつくる”ということです。そのために自分の頭の中で考え判断できる子どもを育てることだと思います。

理科は何を学ぶのか、どのように学ぶのか、つきつめると最終的に“なぜ”が出てくるのだと思います。理科では、その“なぜ”を子どもたち自身がもつことが重要なのだと思います。



社会教科調査官

澤井 陽介 文部科学省教科調査官

理科教科調査官

村山 哲哉 文部科学省教科調査官

最初の社会事象との出会い（社会事象との当面、資料の準備）をしっかりとあげて、一人の子どもの具体的な疑問をみんなの（全体の）疑問にする。そのあと予想して調べていく中で、事実をもとに調べ、現実から離れないことが大切です。そして時間的に見ていく、空間的に見ていく、多面的に立場を変えて関係的に物事を考えていく、みんな考えていく。そうすると何を学ぶのかが見えてくるのです。そしてそれが言葉になって表現されてくる。「分かったこと」と「自分の考え」を常に意図的に書かせていくと、子どもたちは、たくさんの学びを事実の理解以上にしていくのだと思います。



社会

「教科の力をつける」授業展開は？

理科の授業をどうすればよいかという「問題解決」が大切です。「問い」をもつような手立てをどうしていったらよいか、これが理科の授業の一つの大きな山場です。そもそも問題解決というのは欲求なのです。これ何だろう？と思う理解欲求と、〇〇したい、という達成要求です。そのために理科という教科は、体験で引っ張るんです。自然事象への働きかけ、子どもが何か問いをもつような働きかけ、場を用意するということ、そして実験に入って実験から何が言えるか、これは体験活動なんです。こういったものを見せるか、こういった体験を引き出すか、こういった実験をするか、ここから言語活動が生まれてくるのです。



理科

スマイル・プラネット Web サイト公開情報



キャリア教育情報誌

教科の中で、キャリア教育を取り入れるアイデアをご提案・ご紹介しています。



スマイル式
プレ漢字プリント

読み・書きの苦手克服のための、多様なプリントを用意しています。

スマイル・プラネット

検索

NPO法人 スマイル・プラネット とは？

～ NPO 法人スマイル・プラネットとは～

“すべての子どもたちが、自分らしく笑顔で成長する。”を理念に、特別な支援が必要な児童が自分にあった学びに取り組める教材開発と、児童一人ひとりが今の学びを自分の将来に繋げられるキャリア教育教材開発を事業の2つの柱として、各分野の専門家、教育者、医師、教材出版社が連携して活動をしています。

ここでは、事業内容と教育課題をテーマに開催している年に2回のセミナーを紙面でご紹介しました。

*株式会社光文書院は、NPO法人スマイル・プラネットのメインサポーターです。